

# 根固ユニットフォーム (組立式根固ブロック用残存型枠)

NEW

## ●特長

### 1. 河川内据え付け場所で製造が可能

ブロックの据え付け場所に吸出し防止材を布設後、残存型枠とコンクリートブロックを組み立て、コンクリートを打設することが可能です。

### 2. 河川内で施工ができない場合、ヤードでの製作も可能

河川内で直接施工ができない場合、ブロック製造ヤードで製造し、据え付けを行うこともできます。

### 3. 施工性、大型重機が不要

軽量部材を組み立てることで、大型重機の必要がなく、施工性が向上する。中小河川の橋脚下の施工等が可能となります。

### 4. 河川幅の対応が可能

従来の根固ブロックと違い、残存型枠を現地で加工することで、施工現場に合わせたブロックの製造が可能で、護岸基礎部の洗堀防止が期待できます。

### 5. 護岸部洗堀防止

護岸用ブロックを使用することで、河床洗堀を防止し、間詰め作業が不要となります。

### 6. かみ合わせ配列が可能(0.5t・1.0tを除く)

根固工、護岸工施工時に洗堀方向に対して鉄筋連結ではなく、かみ合わせ配列による対応が可能です。

### 7. 河床吸出しの低減が可能

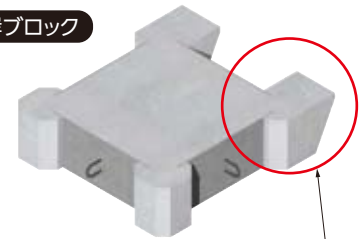
従来の根固ブロックと違い、吸い出し防止材の上に直接コンクリートを打設するため、河床における吸出し及び吸い出し防止材の劣化も防止することができます。

GRC残存型枠とコンクリートブロックを組立てた後に、コンクリートを打設して根固ブロックを構築。鋼製型枠を使用しない根固ブロック用残存型枠です。

### 標準ブロック



### 護岸ブロック



護岸の傾斜に合わせた形状

## ■部材表

① コーナーブロック	4個	
② NUスタンドフォーム	8枚	
③ 固定用アングル	4本	現場手配
④ 固定用平鋼	8枚	現場手配
⑤ M16ボルト	16本	現場手配
⑥ 挿入鉄筋	2本	現場手配
⑦ 挿入鉄筋固定用くさび	4個	

※①は「標準ブロック」の場合は標準タイプ4個  
「護岸ブロック」の場合は標準タイプ2個+護岸タイプ左右各1個  
※部材についての詳細は施工手順書を参照ください。

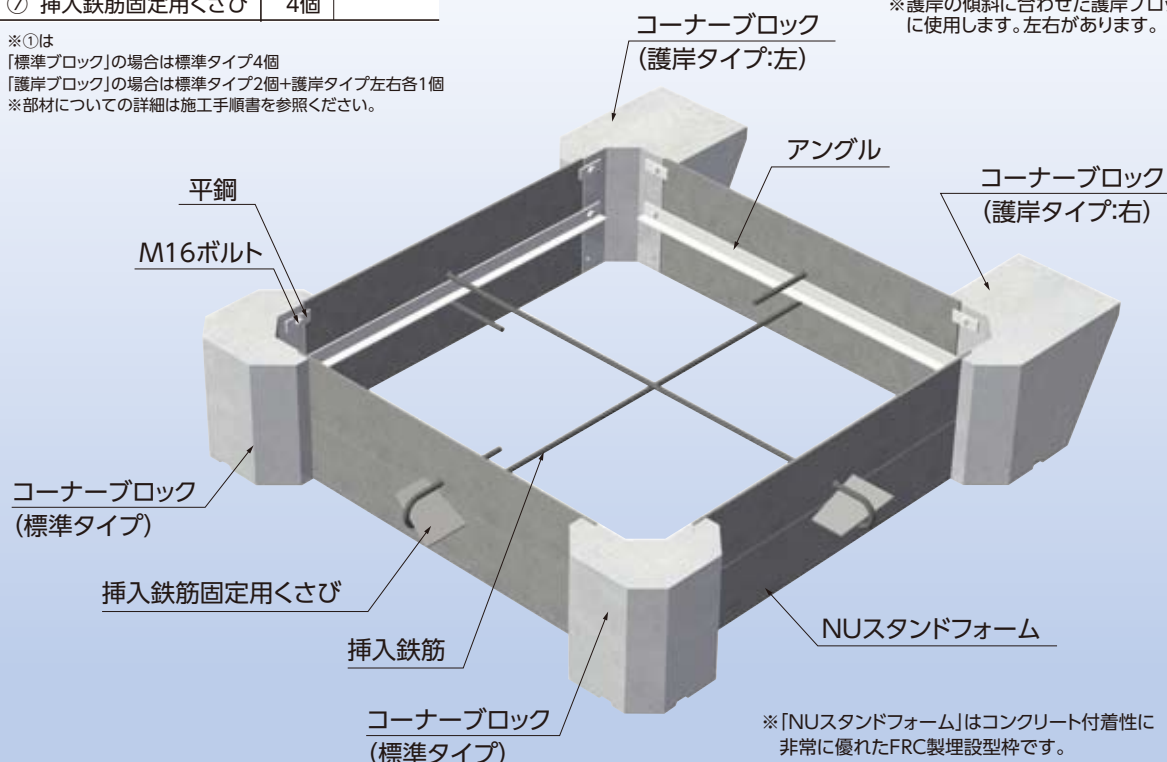


コーナーブロック (標準タイプ)

コーナーブロック (護岸タイプ:左)

コーナーブロック (護岸タイプ:右)

※護岸の傾斜に合わせた護岸ブロックに使用します。左右があります。



※「NUスタンドフォーム」はコンクリート付着性に非常に優れたFRC製埋設型枠です。

構造図

基本形状図

形状・寸法  
重量

擁壁類

管渠類

側溝類

道路関連

河川関連

参考断面図

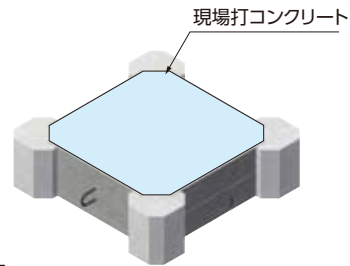
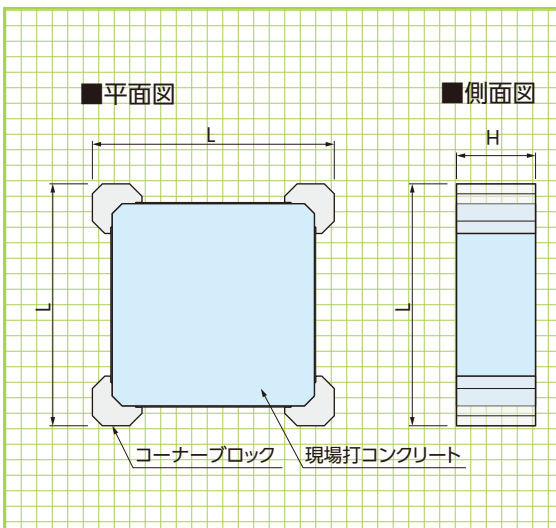
参考敷設図

貯水槽関連

組合製品・その他

工程比較

景観関連

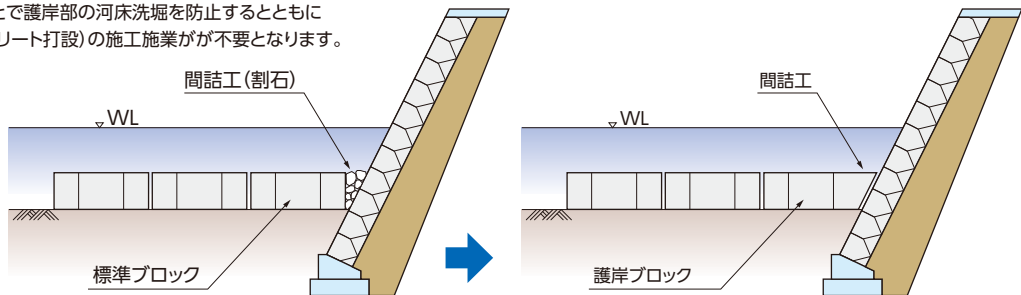


■寸法数量表

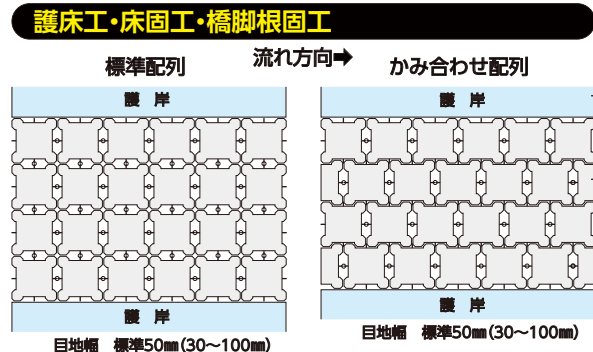
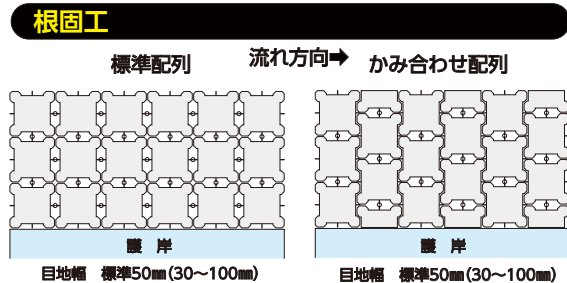
規格 (t)	寸法 (mm)		コーナーブロック標準タイプ参考重量		現場打コンクリート		参考重量 (kg)
	L	H	1個 (kg)	4個 (kg)	体積 (m <sup>3</sup> )	重量 (kg)	
0.5	900	450	94	376	0.146	336	712
1.0	1150	450	94	376	0.304	700	1076
2.0	1600	450	94	376	0.732	1684	2060
3.0	1950	450	94	376	1.190	2737	3113
4.0	2200	450	94	376	1.585	3646	4022

### 参考断面図

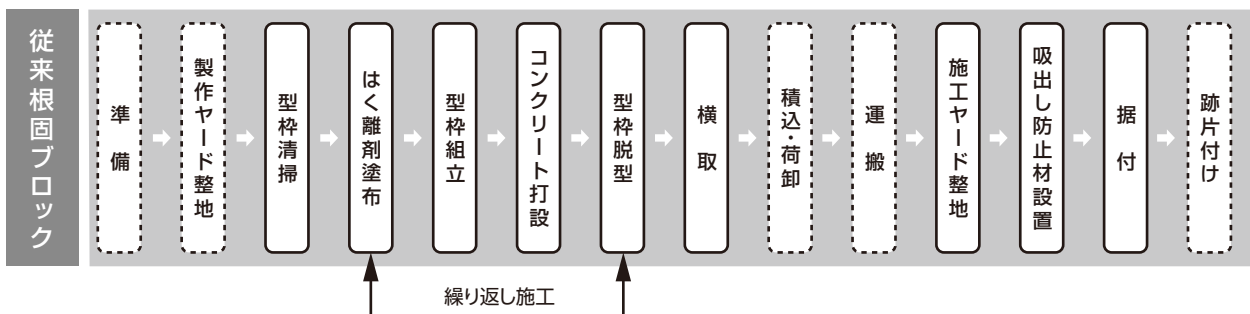
護岸ブロックを使用することで護岸部の河床洗堀を防止するとともに間詰め工(割石詰め、コンクリート打設)の施工施業が不要となります。



### 参考敷設図



### 施工工程比較



型枠脱型、型枠清掃作業、はく離剤塗布作業が不要です。  
横取(積込・荷卸・運搬)、据付け作業が不要です。